



今、生き生きと

東川町国際交流員
王 佳夢 (ワン・ジャーモン=日本語読みはオウ・カム) さん

来町3カ月。町の様子にも慣れ、最近羽衣太鼓保存会の練習に参加するようになったそうです。「古典舞踊の勉強もしたいし、剣道は珍しいですから剣道も体験したい」と日本文化への興味は広がる一方。テレビ番組で毎週楽しみにする番組もできました。町の田園風景もお気に入り。「故郷は都市部なので自然に触れるチャンスが少ないです。静かで居心地が良い。空気がおいしいし、和やかです」と東川ライフを楽しんでいます。

大学で日本語を専攻するまでは、外国語といえば中学から勉強していた英語だけだったそうです。でも大学に入学してから学んだ外国語とは思えないほど自然なアクセント。

大学院に進んで日本の大学に留学したのがよかったそうです。「もっととにかく勉強しなくては」と留学を希望したそう。修士1年

生で2年分の履修を終えて来日、帰国後は1年間修士論文を書くための期間にあてることができたそうです。

ものすごい勉強家のよう。でも当の本人によると「学生寮では、夜の11時になると消灯しますので、みんな夜中に懐中電灯をつけて勉強していました。みんな奨学金をもらうために頑張っているの

私もみんなの背中を見て追いかけてきました」。

◇ 中国では、1980年代生まれの世代を「80后(バーリンホウ)」と呼ぶそうです。計画出産政策の最初の世代(一人っ子政策)で、大事

に育てられるようになってきたといわれる最近の世代の先駆けでもあります。

「ちやほやされて育ったけれど、相談できる兄弟がいらないから、弟がうらやましい。80后の世代は、みんな自由に恋愛をしたいと思っているけれど、中国の伝統的な考え方も心に残っていますので、友だちはみんな安定したら結婚したいと思っています。だから一度はお見合います。日本の若い人は、たぶんしないでしょう?」。

ハルビン師範大学では、日本語の基礎と文法以外の社会文化、歴史、会話をすべて教えているそうです。「準備するのに1週間くらい。教えるのはたった1時間。『こんなに準備したのに、どうして1時間で終わるんだ!』と思う拳を握って。『でももっと調べたくて、もっともって考えたい。どうやって教えたらいいか新しい教え方を見つけない?』。自宅では毎日自分で料理もしているようです。『最近みそ汁も作



日本語留学生の歓迎パーティーで接待役も(6月9日、町民グラウンドで)

ります。王さん流です」。ところが魚料理はまったく出来ないのだそう。「いつもスーパーの魚のコーナーで『いいな』『どうやって作るのかな』『魚おいしく作りたい』。でも『分らない!』』とうなってしまうようです。



台湾・復興航空主催の台湾旅行代理店視察で町内の観光スポットを案内(6月1日、旭岳湧水の湧水地で)



中国に帰国後、修士論文が順調に完成して迎えた修士卒業式で(2012年6月大連外国語大学、同期卒業生と)

王 佳夢さん (29)
 今年4月から東川町国際交流員。中華人民共和国(中国)黒竜江省ハルビン市のハルビン師範大学日本語講師。大連外国語大学(遼寧省大連市)日本学部語言文化学科卒、同大学大学院在学時の2010(平成22)年、長野大学に1年間留学。2012年、大連外国語大学修士卒業(日本語言文学研究)。